



いものが発動してくるであろう「役割意識・使命感」の自覚へと導く。「練られた品性と綽々たる余裕」は「教育の真髄」である。「ビジョン」は人知・思いを超えて進展することを感じする。「国民の理想とビジョンをつくり出すのは、根本において教育と学問のほかにはない」（南原繁）。一見「理解不能モード」である複雑な現代社会・混沌の中での「一筋の光」を感じる日々である。クラーク精神が、「内村鑑三・新渡戸稲造」へと導かれ、英文で書かれた『代表的日本人』（内村鑑三）・『武士道』（新渡戸稲造）は、若き日からの座右の書である。そして、南原繁・矢内原忠雄と繋がった。「人生邂逅」の「非連続性の連続性」であった。筆者は、現在「南原繁研究会」の3代目の代表を仰せつかつている。

人間はお節介をやいてもらいたい生物である。でも「余計なお節介」は嫌である。要するに、「偉大なるお節介」とは、他人の必要に共感することであり、「余計なお節介」と、

「偉大なるお節介」の微妙な違いとその是非の考察がこれからの大きな課題となる。また、他の人々に注意を向けるには、「暇げな風貌」が必要であると考える。「暇げな風貌」と「偉大なるお節介」は、悠々と謙虚を生むことであろう。「偉大なるお節介症候群」が蔓延化すれば、如何に「悩める人々の慰め」となるう。「ユーモア (you more) に溢れ、心優しく、俯瞰的な大局観のある人物」の育成訓練でもある。まさに「本質的な人間教育の見直し」の時代的様相である。新渡戸稲造は、「『最も剛毅なる者は最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢なる者である』とは普遍的に真理である」と述べている。ごく簡単に言えば、「弱いものいじめをするな」ということであり、「なすべきことをなそうとする愛」ということであろう。「他人の苦痛に対する思いやり」は、医療・教育の根本である。